埼玉学園大学・川口短期大学　機関リポジトリ

A Practical Study on Music Teaching Methods at the Course of Preparing Students for the Teaching and Nursery Profession : Initiatives toward Improved ability to Read Musical Scores

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齊藤, 淳子, SAITO, Junko メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1290

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

教員・保育士養成課程における音楽指導に関する実践的研究

── 読譜力向上を目指す取り組みについて ──

齊　藤　淳　子

キーワード：読譜力，初見演奏，教員・保育士養成課程

1. はじめに

本学では，入学予定者を対象としたガイダンスを毎年3月末に実施している。その際に「読譜調査」と「音楽学習経験調査」という2種類の音楽に関わる調査を行っている。そして，これらの結果は，音楽科授業内でのクラス分けや授業計画を検討する際の参考としている。

「読譜調査」では，ト音記号とヘ音記号，それぞれ15音ずつをランダムに並べたものを読む問題と音符の長さを答える問題，音符の計算（音符の足し算や引き算）をする問題で構成した全50問を出題している。これらの問題は，どれも小・中学校の音楽科の授業で習得するレベルのものである。高等学校で音楽を選択していない学生も多く，科目としての音楽から遠ざかっている学生が多いことが予想されるため，「読譜調査」で出題する問題を含めた基本的な楽典についての自主学習ができる資料を事前に配布している（次頁図1参照）。それにもかかわらず，正解率20％未満（10点未満）のものが入学者全体の1割程度はおり，正解率60～70％（30～35点）のものが大多数を占める。

「音楽学習経験調査」では，高等学校での音楽の選択状況についてや音楽に関する部活動等の経験について，ピアノ等の音楽に関する習い事の経験について等の調査を行った。この調査から，音楽系の部活動も習い事も一切したことがなく，高等学校で音楽を選択していないという学生が一定数いることがわかる。また，音楽経験があっても，楽譜を読むことが苦手なためピアノの授業が不安である，というような記述をする学生も多い。実際，耳コピでピアノを弾いている学生も多く，雰囲気としてはなんとなく弾けているように聴こえるが，実際は楽譜に書かれていることを正確に表現しきれていない場合も多い。

以上のことから，ピアノ経験のある・なしを問わず，全般的に読譜力の低さが目立つという現

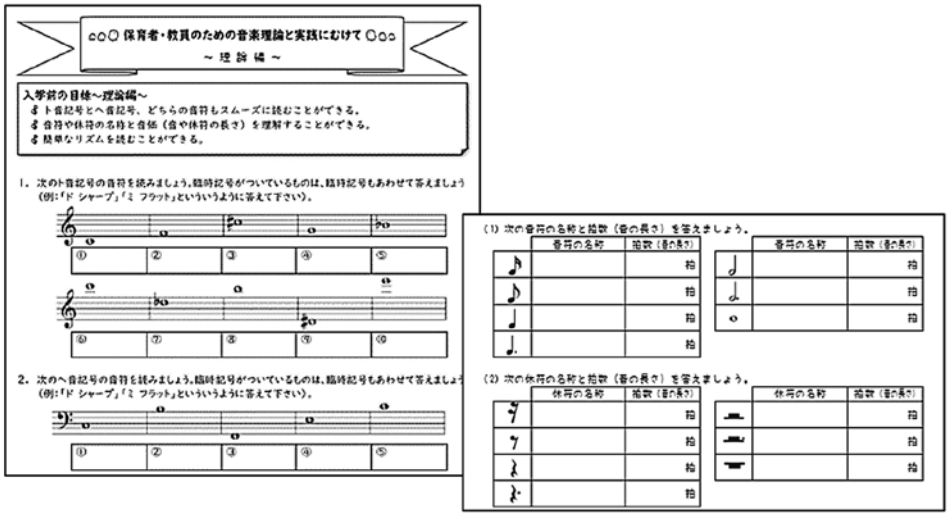


図 1　入学前に配布している楽典に関する事前学習できる資料の一部

状があった。

そこで，毎回の授業で初見演奏に取り組み，音名を振らずに音符を読むことやピアノを弾く際に手元ではなく楽譜を見ること，楽譜は弾いているところよりも少し先を見ること等のトレーニングを積み重ねるとともに，リズム唱も継続して行うことで，総合的に読譜力の向上を図ることができるのではないかと考えた。

さらに，筆者が初見演奏に取り組み始めたきっかけがもう１つある。それは，筆者が本学に着任して早々に聞こえてきた「就職試験の試験内容に初見がある」という学生の困った声であった。着任当初は音楽科の中で初見演奏に取り組んでいなかったのであるが，「初見がある，どうしよう」という学生の声が，就職活動の時期が近づくにつれて多く聞こえるようになったため，音楽Ⅳ（選択科目・後期開講・着任した年度の唯一のクラス授業担当）で初見演奏に取り組むこととした。

本研究では，昨年度から音楽Ⅲで取り組んでいる片手での初見演奏に関する実践紹介と，昨年度の音楽Ⅳを選択した学生に実施した「ピアノの技能」に関するアンケートの結果の考察を中心に行う。

2. 研究の目的

本研究の目的は，読譜力向上を図るために行った初見演奏のトレーニングが有効であったかについて検討することにある。

3. 研究の方法

筆者が担当する「音楽Ⅱ（必修科目）」・「音楽Ⅲ（選択科目ではあるが，ほどんと学生が受講する）」・「音楽Ⅳ（選択科目，年度によって受講者数にバラつきがかなりあるが，昨年度は2年生の約半数が受講した）」の中で，段階的に取り組んだ読譜練習や初見演奏に関わる取り組みについて整理するとともに，音楽Ⅳで実施したアンケート調査の結果について分析する。

⑴ 初見演奏を含む読譜練習に段階的に取り組む

① 音楽Ⅰ（筆者は担当外）及び音楽Ⅱでの取り組み

音楽Ⅰ及び音楽Ⅱでは，ワークシートを用い，ランダムに並べられた音符を読み，記入することによる読譜練習を行っている。

筆者が担当している音楽Ⅱでは，苦手とする学生の多い「ヘ音記号の音域の音」や「加線の多い音符」を中心に行っている。また，1分間という時間制限を設けて行なうことで，苦手な音域であっても瞬時に読むことができるようにするためのトレーニングを兼ねている。

② 音楽Ⅲでの取り組み

音楽Ⅲでは，筆者が作成した楽譜を用いて「片手での初見演奏」を行っている。クラス授業が45分という限られた時間の中での取り組みであるため，J-POPや子どもの歌，わらべうた等，学生も耳にしたことがある楽曲を，初見演奏でも取り組みやすいリズムや調に直した楽譜を作成している。

また，読譜能力を高めるためには音符を読むだけでなく，リズムを読むことにも慣れる必要がある。筆者は，音楽の三要素の中でも「リズム」が基本中の基本であると考えており，中学校勤務時代から「音楽の基本を身に付ける」ために「リズム唱（次頁図2参照）」に取り組んできた。そして，本学においても中学校勤務時代と同じように「リズム」に着目した実践を数多く行っている。リズム唱の進める際，筆者はグループ分けをすることとその日に取り組む箇所を伝えるだけで，学生達はお互いに教え合いながら課題のリズムを読み，できるようになったら筆者のチェックを受けるという方式を取っており，これはアクティブラーニング的な活動でもある。

③ 音楽Ⅳでの取り組み

音楽Ⅳは，2年生の後期に開講される選択科目で，昨年度の受講率は2年生の46％であった。このうちの42％は，入学前にピアノ等を音楽教室で習ったことのない初心者であった。

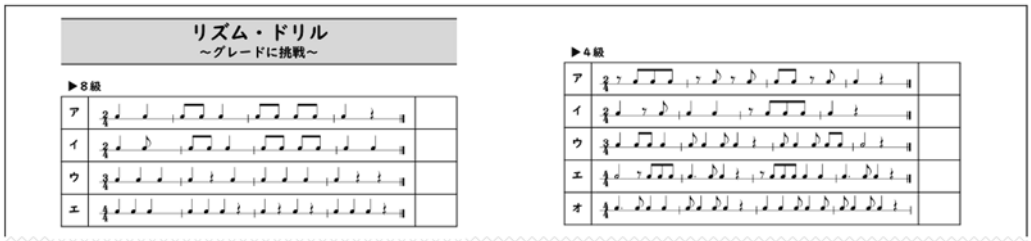


図 2 「リズム唱」の楽譜の一部[1)]

音楽Ⅳでは市販の初見演奏用の楽譜[2)] を用い，この中から「スラーとスタッカート」「重音の練習」「シャープ（嬰記号）の練習」「フラット（変記号）の練習」等に取り組んだ。楽譜には，「音符」だけではなく様々な情報が盛り込まれており，それを瞬時に読み取る練習も必要であるため，調号や臨時記号がついている曲はもちろん，アーティキュレーションも意識して弾くことができる曲を選ぶようにした。

また，「リズム」に関する取り組みも音楽Ⅲに引き続いて行い，リズム・アンサンブルやボディパーカッション，ボイスパーカッションなどを取り入れ，少し工夫すると幼稚園や保育園でも子ども達と楽しめるような楽曲を課題とした。

⑵ 音楽Ⅳを選択した学生に「ピアノの技能」に関するアンケートの実施

昨年度の音楽Ⅳの受講者は，初見演奏を含む読譜練習に段階的に取り組んだ初めての学年である。そこで，期末実技試験の際に「ピアノの技能に関するアンケート」を実施し，初見演奏や読譜力向上について学生自身がどのように感じたかについて調査を行った。

4. 初見演奏に関する授業実践の概要

ワークシート形式となっている楽譜は筆者が作成し，曲名は明記していない。

練習を始める前に，「初見演奏をするための今日の目標」の欄に本日の課題を立てることで，特に注意する点や意識する点などを考えてから取り組むようにした。一度だけ範奏を聴き，1分～1分半程度で個人練習を行う。譜読みの苦手な学生は，すぐに音名を書こうとしてしまうため，そのような時間が取れないよう，できるだけ個人練習の時間を短くした。その代わり，譜読みや初見演奏が苦手な学生は全部を弾くのではなく，一部分だけでもよいこととした。個人練習後は全員で合わせをし，場合にはよっては少しだけ個人練習の時間を追加し，再度，合わせて弾くというようにした。その際，途中までしか弾かない（弾けない）場合であっても，曲が終わるまで

楽譜を目で追うことを続けることで，「楽譜を見る」ということを意識づけさせるようにした。

初見演奏の取り組みの第３回までは簡単な2〜3曲で構成したワークシートを用いたが，第４回以降は，１曲目が「メロディ」で２曲目が「伴奏」となるような楽譜で構成（図３参照）し，最後に２曲を合わせて弾くと簡単なアンサンブルになるよう工夫した。この方法は，学生も楽しかったようで，２つのパートが絡み合って１つの曲を奏でる喜びを感じていた。また，経験者クラスの学生の場合は，個人練習をしている間に２曲を同時に弾くと１曲になることに気付き，両手で弾く学生も見られた。

全員で合わせをした後は，「目標に対する自己評価」を記入し，自分は何が苦手なのかを考えさせる機会とした。

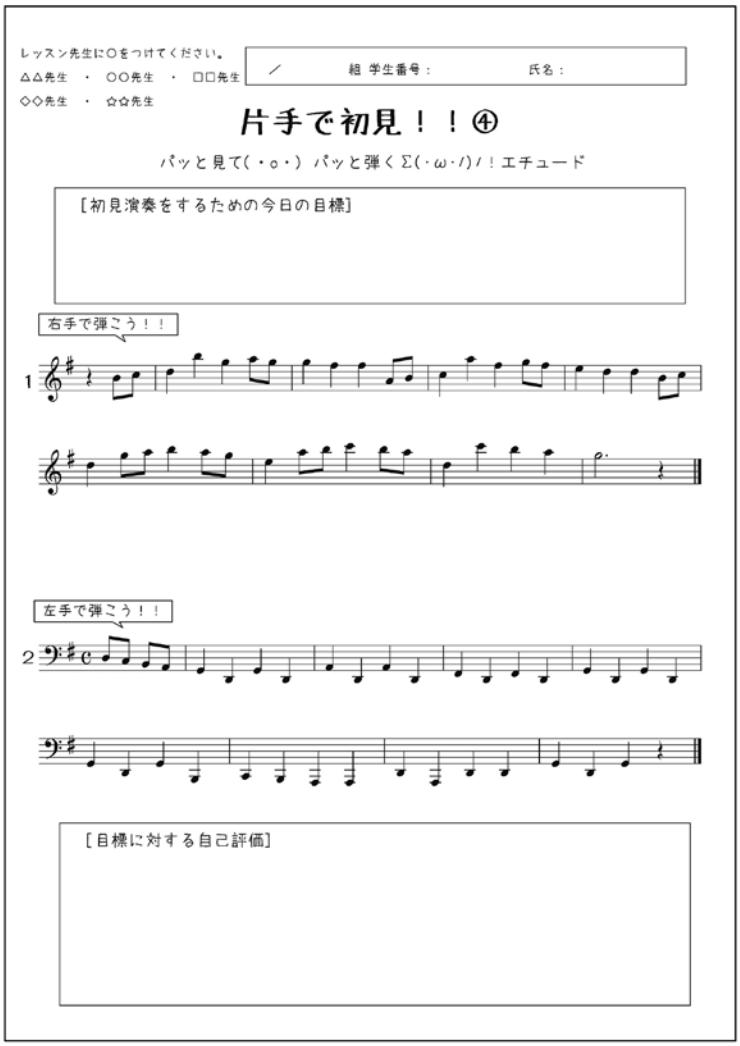


図３　筆者が作成した片手初見の楽譜の例

5. アンケート調査の分析

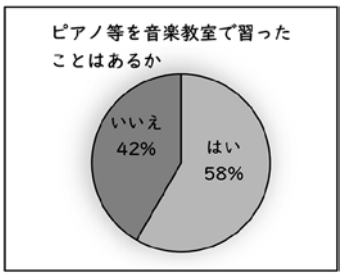
音楽Ⅳの選択者に「『ピアノの技能』に関するアンケート」を実施した。対象は，音楽Ⅳを最後まで受講した2年生（2018年度後期）60名（うち未経験者25名）である。但し，2名は途中から未記入であった。実施日は2019年1月30日（水）で，期末実技試験の際に行った。

アンケートは，大きく3つのことを質問する内容とした。【Q1】は，入学前に関する質問で，入学前にピアノ等の習い事をしたことがあるか・高校生の時に音楽を選択したか・音楽関係の部活動等の経験の有無などである。【Q2】は，大学に入学してからのことに関する質問で，鍵盤楽器の所有楽器について・練習場所や練習時間についてなどである。【Q3】は，初見演奏に関する質問で，初見演奏の経験の有無・初見演奏及び暗譜の得手不得手などである。また，【Q4】として，何を書いてもよい欄も設けた。

【Q1】入学前に関する質問

⑴ 入学前のピアノなどの鍵盤楽器の経験について教えてください。

① ピアノまたはエレクトーン（ドリマトーン）など鍵盤楽器を音楽教室（個人の教室を含む）で習ったことはありますか。

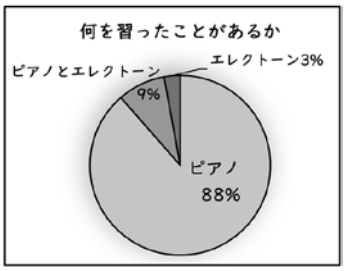


音楽Ⅳは選択科目であるため，音楽を苦手とする学生は受講を敬遠する傾向にある。既述したように，このアンケートは，音楽Ⅳを受講した学生を対象としているため，学年全体の結果ではない。

音楽Ⅳを受講した学生は，6割近くがピアノ等を音楽教室で習ったことがある「ピアノ経験者」だということがわかった。

② 何を習っていましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

＊ピアノ・エレクトーン・ドリマトーン・その他

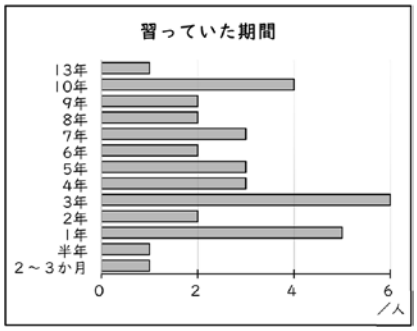


鍵盤楽器の中でもピアノを習ったことのある学生が大半を占める。ピアノとエレクトーンの両方を習ったことがある学生やエレクトーンのみを習ったことがある学生も数人いることがわかる。

なお，エレクトーンはヤマハ株式会社が製造した電子オルガンで，ドリマトーンは河合楽器製作所が製造した電子オルガン

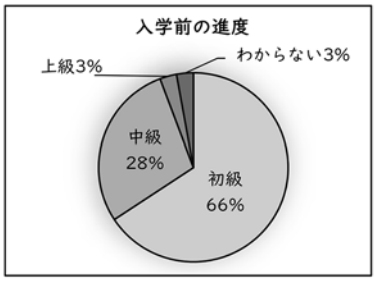
である。

③　習った期間はいつ頃，何年間くらいですか？　どこで習っていましたか？　現在も通っていますか？



ピアノ等を習っていた期間は様々である。習っていた期間が「2～3か月」「半年」と短い学生は，それぞれ高校3年生・大学1年生と回答しており，大学での学びに向けて少しだけ習ったのではないかと考える。また，1～3年間と回答している学生が13人いるが，そのうち半数近い6人は，高校生から大学生にかけて習っていることから，この学生達も将来の進路希望と合わせて習い始めたのではないかと考える。4～7年と答えている学生のほとんどは小学生から中学生にかけて習っていたと回答しているが，中には，小学生の時に一度辞めたが大学生になってから再び習い始めたという学生もいた。8年以上習っている学生は，年中から小学校低学年頃に始めている学生がほとんどで，一番早くに始めた学生は3歳から始めている。また，一番長く習っていた学生は13年間であった。ピアノ等を習ったことがあると回答した学生35人のうち，ほとんどの学生が大学に入る前に辞めてしまっているが，このアンケート調査をした時点（卒業2か月前）でもまだ習っていると回答した学生が4人おり，いずれも比較的遅くに習い始めた学生であった。

④　入学前の進度はどのくらいでしたか。

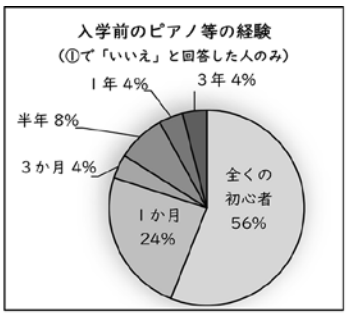


＊初級（バイエル程度）・中級（ブルグミュラー・ソナチネ程度）・上級（ソナタ程度）

それなりの年数を習っていたとしても，入学前の進度は初級（バイエル程度）であると回答した学生が7割弱もいた。自己申告ではあるが，上級（ソナタ程度）を回答した学生は1人しかおらず，10年間習っていたとしても，上級の進度まで到達できていないと感じていたことがわかる。

⑤　①で「いいえ」と答えた人のみ教えてください。入学前のピアノ等の経験はどのくらいですか？

＊全くの初心者・1か月程度・3か月程度・半年程度・子どもの頃に数か月



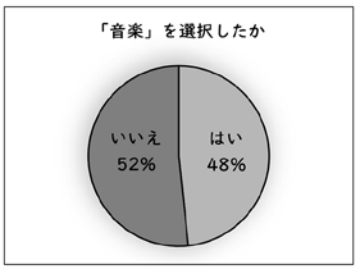
⑴の①の問いは，「ピアノ等を音楽教室で習ったことがあるか」というものであった。音楽教室で本格的に習ったことがないと回答した25人に，入学前のピアノ経験について質問したところ，半数以上は「全くの初心者」と回答している。その他，入学前に1か月程度程ピアノに触れた学生が2割強（6人），3か月程度という学生は1人，半年程度という学生は2人，1年程度という学生・高校3年間という学生がそれぞれ1人ずついた。

⑥　⑤で「全くの初心者」以外と答えた人のみ教えてください。どこで習いましたか？

＊音楽教室等・学校の授業（ピアノ中心）・授業以外で学校の先生に習った・その他

⑤の回答者（25人）のうち，音楽教室で本格的に習ったことがなくても少しピアノに触れた学生が，どのようなところで習ったのかを質問したところ，「学校の先生・授業」という回答が6人いた。保育科があったり，保育系の選択科目があったりする高校では，授業の中でピアノに取り組んでいるところもある。⑤で高校3年間という学生は「学校の授業」で取り組んだと回答している。その他，1か月程度は音楽教室に通ったという学生が3人，友達に教えてもらったという学生が1人，独学で練習したという学生が2人であった。

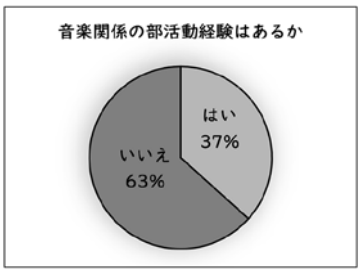
⑵　高校生の時に「音楽」を選択しましたか。「はい」と答えた人は，主な授業内容を具体的に書いてください。



高校での音楽の選択の有無は，ほぼ半々であった。

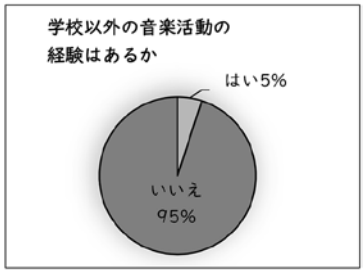
具体的な内容としては，合唱・歌やリコーダー，ピアノ，キーボード，ギター，ウクレレ，ハンドベル，篠笛，箏，器楽，鑑賞，ソルフェージュ，リズム，和音・コード，楽典・音楽理論というものであった。ピアノに取り組んでいるところでは，「バイエルを弾く」というものだけでなく，「童謡の伴奏を考える」というものもあり，比較的，高度な内容の授業を受けてきている学生がいることがわかった。また，楽典やコードに取り組んでいる高校があることもわかった。

⑶　これまでに，音楽関係の部活動に所属した経験はありますか。「はい」と答えた人は，活動期間，活動名（部活動名），パート（楽器名，ソプラノ・アルト，長胴太鼓・大太鼓・締太鼓…など）を教えてください。



6割強の学生が，小学校・中学校・高等学校のいずれにおいても音楽関係の部活動の経験がない。「はい」と回答した4割弱の学生の多くは，吹奏楽経験者である。今回のアンケートでは小・中・高校と続けている学生はいなかったが，中学・高校で吹奏楽を経験した学生は3人，小・中学校で吹奏楽を経験した学生は1人，その他，小学生の時だけ経験している学生は8人，中学生の時だけ経験している学生は5人であった。吹奏楽の他の活動としては，小学生の時は音楽クラブでアコーディオンやいろいろな器楽を経験していたり，合唱部に所属していたりしている。また，高校生になって初めて音楽関係の部活動に所属してしたと回答した学生のほとんどが軽音楽部でギターやベース，キーボードなどを経験していきている。今回のアンケートではいなかったが，以前は，和太鼓や箏などの部活動をやってきたという学生もいた。

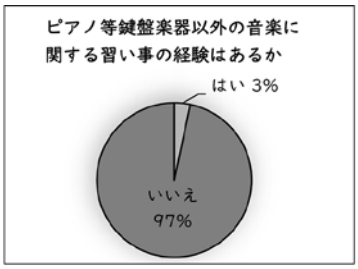
⑷　これまでに，学校以外の音楽活動（合唱団やバンド活動等）を行った経験はありますか。「はい」と答えた人は，どのような音楽活動を行ったことがあるか，具体的に教えてください。



学校以外の場で音楽活動をした経験のある学生はほとんどいない。

「はい」と回答した学生は3人で，具体的には，お囃子，太鼓，合唱の手伝いを経験したと答えている。お囃子や太鼓などは地域で取り組んでいるところもたくさんあり，そのようなところで経験したのではないかと考えられる。ただし，どこで経験したかまではアンケートの中で質問していなかったため，これはあくまでも筆者の予想である。

⑸　これまでに，ピアノなどの鍵盤楽器以外の音楽に関する習い事の経験はありますか。「はい」と答えた人は，具体的に教えてください。



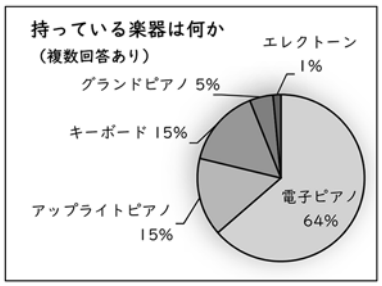
ピアノ等鍵盤楽器以外の音楽に関する習い事をした経験のある学生は2人だけであった。そのうち1人は箏，もう1人は太鼓で，いずれも10年の経験があると回答した。

今回のアンケートではいなかったが，年度によってはヴァイオリンの経験があったり，部活動以外にクラリネット等の管楽器のレッスンを受けている学生がいたこともあった。

【Q2】入学後に関する質問

⑴　鍵盤楽器は持っていますか。「はい」と答えた人は，当てはまるものに〇をつけてください。なお，一人暮らしをしている人は，今，住んでいるところにあるかどうかで答えてください。

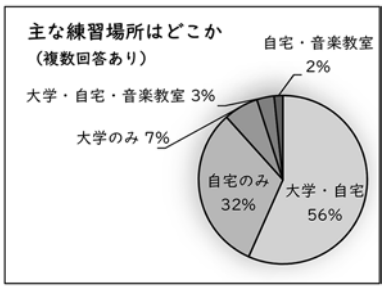
＊グランドピアノ・アップライトピアノ・電子ピアノ・キーボード・エレクトーン・ドリマトーン



全員が何かしらの楽器を所有しており，そのうち64%の学生が電子ピアノを持っていると回答した。筆者は，キーボードの方が多いかと予想していたが，思いの外，電子ピアノの所有率が高いことがわかった。現代の住宅環境・生活環境を考えると，場所をあまりとらずに済むうえに，ヘッドフォンを使うことができるため夜中であっても練習ができる電子ピアノが選ばれるのではないかと考える。

⑵　大学入学後，ピアノの練習は主にどこで行いましたか（複数回答可）。

＊大学・自宅・その他

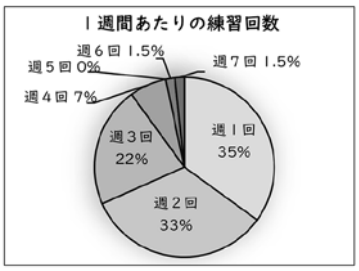


大学と自宅の両方で練習している学生が半数以上いることから，自身が所有している楽器が電子ピアノであったとしても，大学で生ピアノに触れている学生が多くいることが考えらえる。電子ピアノは，生ピアノに比べて金額的にも購入しやすく，調律も必要ないため維持費もあまりかからない。しかし，音色の変化を工夫したり，音の強弱をつけたりすることで，より豊かな表現を求めるためにはやはり生ピアノに触れる必要がある。また，ただ音を出すだけではなく，音楽を奏でることが少しずつできるようになってくると電子ピアノでは物足りなさを感じるようになってくるのではないかと考える。そうなると，必然的に大学で練習する時間も増えてくると考える。

⑶　週の練習量は平均どのくらいでしたか。

＊週１回・週２回・週３回・週４回・週５回・週６回・週７回

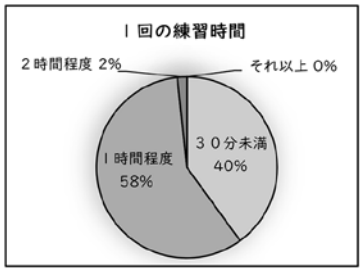
⑵で大学と自宅で練習していると回答している学生が多い一方で，１週間あたりの練習回の少なさに唖然としてしまった。１週間に1〜2回しか練習していない学生が７割弱である。１週間に6〜7回，つまりほぼ毎日ピアノを弾いていると回答した学生は，それぞれ１人ずつしかいなかった。



ピアノに限らず，何か楽器を習得するためには，日々の練習の積み重ねが必要となる。しかし，毎日長時間練習する必要はなく，１回の練習時間が 30 分程度でも構わないのである。短大生の場合，授業は比較的ビッシリ入っており，また，様々な科目から出されるたくさんの課題をこなしつつ，放課後はアルバイトをしているという学生も多く，本当に忙しそうである。そのような中でも隙間時間を見つけてコツコツと練習を積み重ねていくと，少しずつ上達していくのである。

⑷　１回の練習時間は平均どのくらいでしたか。

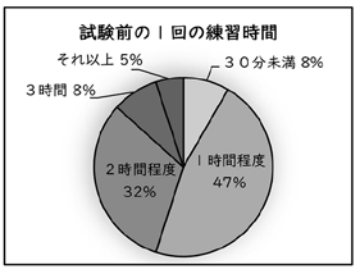
＊ 30 分未満・1 時間・2 時間・それ以上



試験近くではない時の１回あたりの練習時間は１時間程度と学生が半数以上いることがわかる。⑶の回答と合わせてみてみると，１回にまとめて練習しているという学生が多いのではないかと考えられる。上述の通り，ピアノが上達するためには１回の練習時間を増やすよりも，短時間であっても毎日コツコツと積み重ねていく方が効果的である。指導者は，忙しい日々を送る学生に時間の使い方の工夫についてもアドバイスする必要があるのかもしれない。

⑸　試験前の練習時間はどのくらいでしたか？

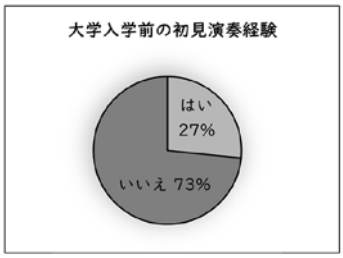
＊ 30 分未満・1 時間・2 時間・それ以上



⑷の結果と比較すると，試験前になると１回の練習時間が増えていることがわかる。試験近くではない時は 30 分～1 時間程度が大半を占めていたが，試験が近くなると練習時間は 1～2 時間程度との回答が大半を占めた。中には 4 時間と回答した学生もいた。この結果からも，毎日コツコツ練習を積み重ねるのではなく，まとめて練習していることがわかる。

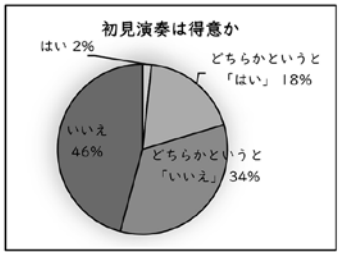
【Q3】初見演奏に関する質問

⑴　大学入学前に初見演奏をしたことはありましたか？「はい」と答えた人は，当てはまるものに〇をつけてください。



初見経験のある学生のうち半数はレッスンの一環として取り組んだことがあった。残りの半数のほとんどは独学で，自分で弾きたい曲をパッとみて弾いていたというものであった。その他，1名だけであったが，部活動（吹奏楽部）の練習の中で初見に取り組んだことがあると回答した。

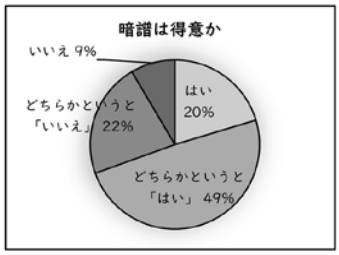
⑵　あなたは，「初見演奏」をすることが得意ですか？



8割の学生が「初見演奏」は苦手・どちらかというと苦手と回答した。

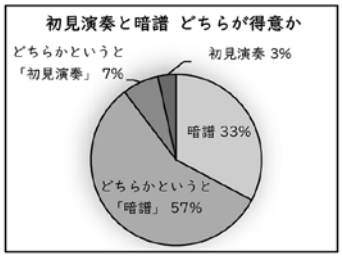
筆者自身，子どもの頃から初見演奏をすることが楽しく好きだったのであるが，その反面，暗譜が苦痛であった。もしかすると，初見演奏の得手・不得手と暗譜の得手・不得手との関連があるのではないかと考え，次に「暗譜」に関する質問を行った。

⑶　あなたは，「暗譜」をすることが得意ですか？



約7割の学生が，「暗譜」は得意・どちらかというと得意と回答した。覚えてしまって弾く方が得意，つまり，楽譜を見て弾くことが苦手だと思っている学生が多い。保育・教育の現場では，ピアノを弾きながらも子ども達の様子を見ることができる「暗譜」も必要なスキルである。しかし，間違ったまま覚えてしまうと，なかなか正しく直すことができないという難点もある。楽譜を見ながら弾けることもできるようになると，間違いがあった時に，比較的スムーズに修正することができるため，どちらも身に付けてもらいたいスキルである。

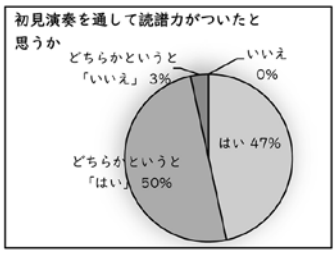
⑷　あなたは，「初見演奏」と「暗譜」ではどちらが得意ですか？



上述の質問からも予想がついたのであるが，9割の学生が「暗譜」の方が得意・どちらかというと得意と回答した。但し，ここでいう「暗譜」は「音符を覚えて弾く」と捉えている学生も多いことが考えられる。しかし，本来「暗譜」は単に音を覚えるだけでなく，楽譜に表記されている全てのこと，例えば，強弱記号であったり，速度記号であったり，表現に関する記号

であったり，と楽譜に込められている全ての情報を含め「楽曲を理解」する必要がある。実際のところ，ここまでを含めた「暗譜」ができる学生は，本学では多くはない。

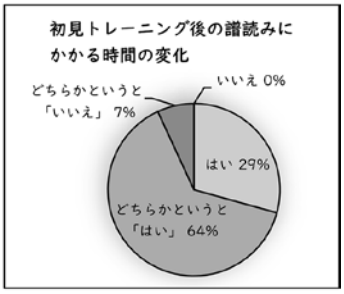
⑸　音楽Ⅰ・Ⅱでは読譜練習，音楽Ⅲでは片手初見，音楽Ⅳでは両手初見というように，だんだんと難易度を挙げていきました。これらのトレーニングを行うことで読譜力がついたと思いますか？



段階的に初見演奏を含めた読譜練習を繰り返し行ったことで，読譜力が身に付いたと実感（「はい」と「どちらかというと『はい』」と回答）した学生は，97％で，音楽Ⅳの受講者のほとんどが「読譜力が身に付いた」と実感していることになる。

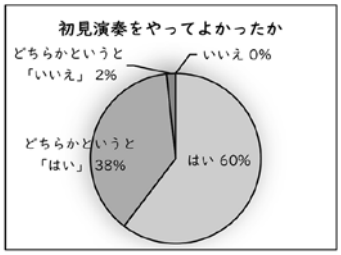
「どちらかというと『いいえ』」と回答した学生は２人であるが，読譜力は一朝一夕で身に付けられるものではなく，週１回の授業だけで簡単に身に付けられるものでもない。授業での取り組みは，あくまでもきっかけであり，普段の練習から意識するかどうかなど，個々の取り組み方の差や感じ方の差にもよると考えられる。

⑹　初見演奏のトレーニングに取り組む前と後では，譜読みにかかる時間は変わりましたか？



「はい」と「どちらかというと『はい』」と回答した学生は93％で，９割強の学生が「譜読みにかかる時間が短くなった」「早く譜読みができるようになった」と感じている。このことからも，読譜力がついたと実感している学生が大多数であることがわかる。

⑺　初見演奏は苦手な人も多かったと思いますが，結果的にやってよかったと思いますか？　その理由も教えてください。



音楽Ⅳを選択した学生の98％が「初見演奏」に取り組んで良かった・どちらかという良かった，と答えている。

どちらかというと「いいえ」と回答した学生は，「あまり成長した実感がないから」という理由であったが，これは，授業内で「初見演奏」を行った回数がさほど多いわけではないため，成長を実感できるほどではなかったのではないかと考える。但し，他の大多数の学生は，「音符を前よりも早く読めるようになった」「1曲を弾けるよ

うになるまでの時間が早くなった」「スラスラ弾けるようになったから」「楽譜を見ながら弾けるようになったから」「譜読みする時間が短くなり，練習する時間が増えた」「新しい曲にチャレンジしやすくなった」「簡単な曲はパッと弾けるようになった」「1 曲にかかる時間がだいぶ減ったから」「やればやるほど上手くなっていく気がしたから」「自分でやろうとすると結果的に暗譜してしまうため，授業でやれるのはよかった」「何の音かすぐ分かるようになったのと，リズムが分かるようになったから」「瞬間的な記憶力がついたと思う」「就職試験で初見が出た際になんとか弾けた」「保育では，就職したら初見でやらないといけない場合もあると思う」「幼稚園教諭として必要なスキルだから」「楽譜を見て読む力が身に付いたので，弾きやすくなった」「自分では克服できなかったけど，次を見て弾けば止まることなく弾けるから」「弾けるようになった曲を家族の前で披露できるようになったから」「初見はとても苦手だったけど，今は少しずつ読みるようになっているので，良かったと思う」「ピアノがすごく嫌いだったので，やってできた時の嬉しさがすごかったから」「慣れが大切だと思うから」「学んだことが多かったから」などの理由で，「初見演奏」に取り組んで良かったと答えている。

6. まとめと今後の課題

「初見演奏」に取り組んだことにより，譜読みにかかる時間が短くなったり，楽譜を見ながら弾くことができるようになったりしたことで，学生の大多数は読譜力がついたと実感している。

また，「初見演奏」を始める前にその日の課題を立て，取り組み後に自己評価することで，自分は読譜の何が苦手なのかに気付くことができた学生も多くみられた。

例えば，Y さんの場合は，「音符を数えないようにする」という課題に対し「高い所になると数えてしまうことが分かりました」，「指がスムーズに動かせたらいいな」という課題に対し「手元を見ないように弾けた，左手もできた」，「頭の中で音符を考えて弾けるようになる」という課題に対し「手元を見ずに隣の音のことを考えて指を動かせたと思う」という自己評価を記入している。立てている課題も簡単なものから少しずつ変化し，「初見演奏」を行っている時の思考についてまで考えられるようになっている。

K さんの場合は，「スムーズに弾けるように頑張る」という課題に対し「②の方の曲は，見ただけで音とリズムを読み取るのは難しかったですが，練習して弾いてみると意外と弾けたので，次回もがんばりたいです」，「止まらずに弾けるようにする」という課題に対し「音の長さを意識すると音が分からなくなるので直したいです」，「見た音をなるべく一瞬で弾けるようにする」という課題に対し「音が高くなるにつれて難しいなと感じました。高い音でも初見で弾けるように次回はがんばりたいです」，「右手は，そろそろ初見をマスターしたいのでパッとみて弾けるよう

に頑張りたいです」という課題に対し「今回は知っている曲だったし，音が近いので弾きやすかったです」と自己評価を記入している。回を重ねるごとにもっとできるようになりたいという意欲に繋がったり，どういう音符の配列だと弾きやすいのかということに気付いたりしている。

以上のことから，「初見演奏」のトレーニングに取り組むことが読譜力の向上にも繋がっていると考えられる。さらに，「初見演奏」に取り組むことでピアノを弾くことが苦手と感じていた学生にも意欲の向上が見られたことから，「初見演奏」のトレーニングは有効であるといえる。

今回の研究は，学生の困り感をどのように解消したよいかということからスタートしており，実践を優先して行ったため，先行研究についてはあまり調べていない。そのため，今後は「初歩段階のピアノ技能に関する」先行研究や「初見演奏と読譜能力の関係に関する」先行研究について調べる必要がある。また，今回の「初見演奏」は比較的，学生が耳にしたことのある曲を多めに選曲したが，今後はテクニック的に優しいが知らない曲と知っている曲とではどのような差が生まれるのか比較する必要もある。さらに，どのように初見の能力が身に付いたのかについてなど，より具体的に検討する必要がある。

参考文献

1）　小林一光（2003）『イラストでみる合唱指導法』教育出版株式会社
2）　熊谷新次郎・熊谷加惠子（2014）『ピアノ上達のための初見練習 301』株式会社ドレミ楽譜出版社

（提出日　2019 年 9 月 27 日）